

基本目標	主要施策				主な取組			
	項目	30年度の成果目標	実績	内部評価	項目	30年度の達成目標	実績	内部評価
1「強靱」な水道の構築	(1)安定給水の確保	(1)ハッ場ダム完成による水源の確保 (2)安定給水度 ①浄水場事故割合:0件(件数/箇所) ②管路の事故割合:1.6件以下(管路100kmあたり)	(1)- (2) ①0件 ②0.7件	b	① 水源の安定化	ハッ場ダム事業への引き続きの参画	ハッ場ダム事業への引き続きの参画	—
					② 浄・給水場施設の更新・整備	1)ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備 洗浄排水池築造工事等の着手 2)福増浄水場浄水処理改善 機械・電気設備工事の着手 3)柏井浄水場東側施設 浄水処理改善 二次ろ過施設実施設計の完了	1)洗浄排水池築造工事等の発注の実施(工事に至らず)及び送水ポンプ機械設備工事等の着手 2)機械・電気設備工事の着手 3)二次ろ過施設実施設計の一部完了	b
					【評価の理由】 洗浄排水池築造工事等について、発注手続きを行ったが、不調により、工事着手に至らなかったため 二次ろ過施設の実実施設計について、最適な設計条件の見極めに時間を要したため 【今後の対応】 二次ろ過施設の整備に向け、詳細設計を進める			
					③ 浄・給水場設備の更新・整備	設備の更新・整備進捗率: 44.4%(8件/18件) (3年間分累計)	38.9%(7件/18件)	b
【成果指標】 浄水場事故割合、管路の事故割合、いずれも目標を達成 【施策全体の評価の理由】 成果目標は達成したが、各取組の評価が「a」1つ、「b」2つであったため 【今後の対応】 関係機関との調整や早期発注を行いながら、工事の進捗管理に努め、各取組を計画的に実施する				④ 管路の更新・整備	ア)小口径鑄鉄管の更新延長:75.5km イ)大口径管の更新延長:0.1km ウ)基幹管路の整備延長:0.6km	ア)76.1km イ)0.3km ウ)0.2km ※うち0.4km分はH29年度完了済	a	

基本目標	主要施策				主な取組			
	項目	30年度の成果目標	実績	内部評価	項目	30年度の達成目標	実績	内部評価
1「強靱」な水道の構築	(2)耐震化の推進	(1)浄・給水場の耐震化率(うち、ポンプ棟の耐震化率):98.1% (95.7%)	(1)98.1% (95.7%)	a	① 浄・給水場施設の耐震化の推進	浄・給水場施設の耐震施設数: 2施設	2施設	a
		(2)湾岸埋立地域における管路の耐震化率:43.8%	(2)44.2%		② 管路の耐震化の推進	ア)湾岸埋立地域での管路更新延長:25.9km	ア)29.4km	再掲
	(3)管路の耐震化率(耐震適合管含む):21.8%	(3)22.5%	イ)小中口径鋳鉄管の更新延長:75.5km	イ)76.1km				
			ウ)大口径管の更新延長:0.1km	ウ)0.3km				
			エ)基幹管路の整備延長:0.6km	エ)0.2km ※うち0.4km分はH29年度完了済				
	(3)危機管理体制の充実	非常時職員参集管理システム応答率(1時間以内):98%以上	98.5%	a	①緊急時に備えた体制の充実	1)訓練の実施回数 総合訓練:7回 テーマ型訓練:104回 支援協力員訓練:1回 2)柏井備蓄倉庫の建設完了	1)訓練の実施回数 総合訓練:7回 テーマ型訓練:120回 支援協力員訓練:1回 2)柏井備蓄倉庫の建設完了	a
②給水区域内11市等関係団体との連携強化					合同訓練の実施回数:11回	11回	a	
③浄水施設の危機管理対策の強化					1)覆蓋設置工事の継続 柏井浄水場西側施設 2)覆蓋設置工事の着手 北総浄水場 ちば野菊の里浄水場	1) 柏井浄水場西側施設に係る工事継続 2) 北総浄水場、ちば野菊の里浄水場に係る工事着手	a	

基本目標	主要施策				主な取組			
	項目	30年度の成果目標	実績	内部評価	項目	30年度の達成目標	実績	内部評価
2「安全」な水の供給	(4)安全な水づくり	水道水における水質基準超過件数:0件	0件	a	① 水源の監視・保全	水源調査の実施回数: 384回以上	523回(定期384回、臨時139回)	a
					② 高度浄水処理の拡充	1)ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備 高度浄水処理施設築造工事の進捗管理 2) 柏井浄水場西側施設埋設汚泥対策 埋設汚泥対策の評価・検証	1)高度浄水処理施設築造工事の進捗 2)埋設汚泥対策の評価・検証	a
					③水質管理レベルの維持・向上	ア)水安全計画の見直し イ)①水道GLPの認定の維持・継続 ②水質検査機器24台の整備(更新・新規) ③水質検査計画の更新	ア)水安全計画の見直しを実施 イ)①水道GLPの認定を維持・継続 ②水質検査機器24台を整備(更新・新規) ③水質検査計画を更新	a
	(5)おいしい水の供給	(1)水道水の飲み水としての満足度:78% (2)水道水のおいしさ:53%	(1)75%(実績値の誤差範囲: 73.2%~76.8%) (2)52%(実績値の誤差範囲: 49.9%~54.1%)	b	① おいしい水づくりの技術的な取組	ア)姉崎分場の塩素多点注入設備工事の完了及び船橋給水場配水区域での残留塩素濃度低減化試験の実施 イ)送・配水管の計画洗浄延長:1,000km ウ)①貯水槽水道の適正管理啓発実施率:61% ②直結給水率:72.8%	ア)姉崎分場の塩素多点注入設備工事は未完了(令和元年9月完了予定) 船橋給水場配水区域での残留塩素濃度低減化試験を実施 イ)1,170.2km ウ)①61%(5,579箇所/9,175箇所) ②73.7%	b
		【成果指標】 水道水の飲み水としての満足度は、標本誤差を加味しても、目標を下回った 【施策全体の評価の理由】 成果目標が未達成(目標に対して80%以上の進捗)であり、各取組の評価が「a」2つ、「b」1つであったため 【今後の対応】 各種施策を実施し、引き続き、おいしい水の供給を推進する			②安全でおいしい水キャンペーン	1)イベント参加人数:22千人 2)水道水の安全性についての理解度:79%	1)23千人 2)81%	a
					③お客様とのコミュニケーション	1)おいしい水づくり推進懇話会開催回数:2回 2)「水質検査体験」への協力者数:160人	1)2回 2)201人	a

基本目標	主要施策				主な取組			
	項目	30年度の成果目標	実績	内部評価	項目	30年度の達成目標	実績	内部評価
3 お客様からの「信頼」の確保	(6)お客様サービスの推進	(1)「県水だより」満足度: 89% (2)「ホームページ」満足度: 77% (3)お客様サービス満足度: 90%以上	(1)86%(実績値の誤差範囲: 84.2%~87.8%)	b	①「お客様の声」を活かした事業運営(広報・広聴の充実)	ア)お客様の要望を踏まえた県水だより及びホームページの改善	ア)お客様の要望を踏まえた県水だより及びホームページの改善	b
			(2)74%(実績値の誤差範囲: 71.9%~76.1%)			イ)①アンケート情報収集割合: 1.87件(給水人口1,000人当たり) ②業務改善数: 5件以上	イ)①1.84(件/1,000人) ②5件	
			(3)95%			【評価の理由】 当初予定していたイベントの一部が開催されなかったことにより目標を下回ったため 【今後の対応】 イベント等を活用し、広聴の充実に努める		
			【成果指標】 「県水だより」満足度、「ホームページ」満足度は、標本誤差を加味しても、目標を下回った 【施策全体の評価の理由】 成果目標が未達成(目標に対して80%以上の進捗)であり、各取組の評価が全て「b」であったため 【今後の対応】 広報・広聴活動の充実に図り、お客様目線に立った取組を行うことにより、お客様からの「信頼」の確保に努める					
(7)大規模事業体の責務と社会貢献	二酸化炭素排出削減量: 2,954t-CO2/年以上	2,954t-CO2/年	a	② 接客マナーの向上	接客サービス推進月間において取組を実施した所属数: 54所属(27所属×2回)	53所属	【評価の理由】 1所属において、接客マナー改善の取組が実施できなかったため。 【今後の対応】 接客マナーのスキルアップとサービス意識の向上を図る。	b
					③ 新たな水道料金システムの開発と上下水道料金徴収一元化の実施	—	—	—
					① 省エネルギー化の推進及び再生可能エネルギーの活用	ア)省エネルギー化設備率: 57%(4設備/7設備) イ)再生可能エネルギー発電設備活用による発電量: 3,100 kWh以上	ア)57%(4設備/7設備) イ)3,742 kWh	a
					② 資源リサイクルの推進	ア)浄水発生土の再資源化率: 100% イ)再利用可能な建設発生土の再資源化率: 100% ウ)建設副産物の再資源化率: 100%	ア)100% イ)100% ウ)100%	a
			a	③ 県内水道の統合・広域化に向けた検討	検討の推進	検討の推進	—	
				④ 国際貢献及び他事業体への支援	1)海外水道事業体への技術支援: 積極的な技術支援の実施 2)県内水道事業体へ開放する研修講座数: 4講座	1)積極的な技術支援の実施 2)5講座	a	

基本目標	主要施策			主な取組				
	項目	30年度の成果目標	実績	内部評価	項目	30年度の達成目標	実績	内部評価
運営基盤の強化 (人材・業務能率・経営)	基本目標1~3に位置づけた7つの主要施策の達成度:95%以上	95%	a	a	①実践的な技術研修の実施	1)希望研修の受講率:80%以上 2)専門技術研修受講者数:50名	1)96% 2)104名	a
					②職員の育成と能力開発	局独自の研修の継続、より質の高い効果的な研修を目指した定期的な見直しの実施	局独自の研修の継続、より質の高い効果的な研修を目指した定期的な見直しの実施	a
					③計画的な人材確保	積極的な職員採用と他部局との人事交流の実施	積極的な職員採用と他部局との人事交流の実施	a
					④民間活力の活用による事業の推進	施工管理業務委託の実施件数:20本	21本	a
					⑤情報化の推進	1)情報システム等の整備件数:10件 2)情報セキュリティ研修等受講者数:150人 3)コンピューターウイルス感染及び情報漏洩件数:0件	1)10件 2)253人 3)0件	a
					⑥品質確保に留意したコスト削減	ア)ライフサイクルコストの低減化 イ)経常費用の圧縮	ア)ライフサイクルコストの低減化 イ)経常費用の圧縮	a
					⑦健全経営の確保	1)経常収支比率:100%以上 2)自己資本構成比率:76.8%以上	1)115.2% 2)79.3%	a
<p>【計画全体の事業の進捗状況】 a評価:4施策 b評価:3施策</p> <p>【計画の事業費ベースの執行率】 執行率:約89% 最終予算:約496億円 執行額:約443億円 (繰越額:約127億円)</p> <p>【水道事業全体の経営状況】 (↑:良化、→:横ばい、↓:悪化) 経常収支比率:115.2% ↓ 自己資本構成比率:79.3% → 給水収益に対する企業債残高の割合:229.1% ↑ 流動比率:205.4% ↓ 有収率:95.2% ↑ 法定耐用年数超過管路率:23.0% ↓</p> <p>【評価の理由】 事業は予定していた成果を挙げたことと併せて、経営の健全性・効率性が維持されているため</p> <p>【今後の対応】 経営の健全性・効率性を確保しつつ、計画的な事業の推進により、基本理念の実現を目指す</p>								